

北村たかゆきと一緒に「住むならやっぱり関」を考える通信

コクリエ・セキ

Co-Creation



ご意見・
お困り事は
こちらのLINE
からお気軽に

特集

関市を、「社会的処方」^{※1}を実践するまちに。

こんにちは。関市議会議員の北村です。私には地域共生社会を作りたいという理念があります。専門職だけにお任せにするのではなく、地域一人ひとりが何らかの役割を担い、皆で助け合う地域にしたい。それが叶えば、皆にとって生きやすい地域になると考えます。そのためには社会的処方が有効であり、現在の地域の課題解決にもつながると考え、先日の9月議会で一般質問しました。

2024 秋 | 第 6 号



社会課題

孤独孤立について

- ・ **孤独孤立**は1日にたばこを5本吸うのと同じ健康被害を及ぼすとの研究報告がある <北村>
- ・ 関市でも**独居率が増加**、愚痴を話せたり聞いてあげたりする相手がいない人も増加している <市>

北村から質問／市が孤独孤立対策で取り組んでいることは？

市のお返／関市では**重層的支援体制**^{※2}の整備が進められており、これが**孤立孤独対策**の機能も果たしている。

5事業を展開

- ・ 包括的な相談支援
- ・ 地域づくり
- ・ 参加支援（地域コミュニティや分野の活動への参加を支援）
- ・ アウトリーチ（対象者を発見し、サービスを提供する）
- ・ 多機関協働（支援関係機関が素早く連携できる環境へ）

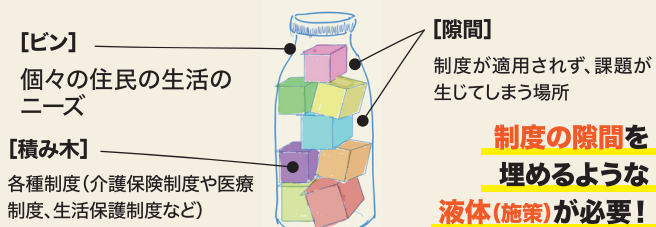
既存の支援体系

- ・ 地域包括支援センター
- ・ 子育て世帯への支援

※2 地域住民や世帯に必要な支援・福祉の環境を、一体的かつ重層的に整備する事業

上記の通り、フォーマルな支援体制は整っているが、**地域の人と人とのつながりで解決していく部分（＝インフォーマルな支援）**の体制作りは進んでいない。インフォーマルな支援の具体例：助け合い、おせっかい など

重層的支援体制整備のイメージ（北村事務所作成）



参考：岩名礼介講演資料（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）

北村は／**制度の隙間を埋めるには、社会的処方の考え方を導入するのが近道だと考えます**

※1 **社会的処方**＝薬で人を元気にするのではなく、人とまちとのつながりで人が元気になる仕組み

政府の2020年の骨太方針では、「かかりつけ医等が患者の社会生活面の課題にも目を向け、地域社会における様々な支援へとつなげる取組についてモデル事業を実施する」とあり、これがいわゆる「社会的処方」と呼ばれる取組と定義されています。

社会的処方を地域で実践するために、次の3つの施策を提案します

1 リンクワーカーを既存の専門職 or 市民の中から養成

医療福祉と地域コミュニティとの間をつなぐ役割を担う人

2 暮らしの保健室を小学校区に開設

健康・福祉の総合相談だけでなく、予防や啓発も行う。地域保健師があたるのが望ましい。

3 地域委員会をアップデートし、福祉分野の機能を付与

三重県名張市のように、**小学校区のまちづくり協議会と暮らしの保健室**を同居させている事例もある。関市も地域委員会のアップデートが必要な段階にきている。地域委員会が福祉分野でも活躍できるようになれば、重層的支援と地域委員会の両者の課題を解決できると考えます。

>> この一般質問の様子はここから

YouTube「関市議会」令和6年9月13日一般質問（北村）



北村たかゆき

プロフィール

岐阜県関市出身。1980年生まれ。関幼稚園、安桜小学校、緑ヶ丘中学校、関高等学校、金沢大学法学部、名古屋大学大学院国際開発研究科修了。

石川県七尾市のまちづくりの株式会社に従事してまちづくりを学んだ後、名古屋市内の中間支援NPOに従事。その後、ふるさと関市でまちづくりNPOを立ち上げ、市民参加型フリーマガジン「ぶうめらん」を創刊。

2009年よりNPO法人が関市市民活動センターの運営を受託。その他の主な歴任した役職；NPO法人ぎふNPOセンター副理事長／公益財団法人あいちコミュニティ財団理事、岐阜医療科学大学、岐阜大学非常勤講師／関有知高等学校 学校運営協議会委員／安桜保育園父母の会会長／安桜小学校PTA R4成人・ふれあい委員会委員長／関市社会福祉協議会評議員／社会福祉法人桜友会評議員 等